opusdei.org

年間第6週日曜日・ B年44.罪という重 い皮膚病

年間第6週日曜日・B年44. 罪という重い皮膚病一主は私たちの最も深刻な悪を癒すために来られる。重い皮膚病の人の治癒。一重い皮膚病は罪の象いて罪をゆるす。の名において罪をゆるす。ゆるしの秘跡の使徒職。

2024/04/09

年間第6週日曜日・B年

44. 罪という重い皮膚病

- 一 主は私たちの最も深刻な悪を癒す ために来られる。重い皮膚病の人の 治癒。
- 重い皮膚病は罪の象り。司祭はキリストの名において罪をゆるす。
- 一ゆるしの秘跡の使徒職。

4 4. 1 主は最も根深い病を癒すために来られました。重い皮膚病の治癒。

今日のミサの福音で語られた重い皮膚病患者の癒しは¹、人々を大いに感動させたに違いありません。これは使徒たちの説教にもよくて現れまない。3人の福音史家によってよれています。聖ルカはでいます。聖ルカは、その重いな状態だったと詳細に記述しています。その重い皮膚病の患者は「全

身重い皮膚病にかかっていた」²と、ルカは述べているのです。

その当時、重い皮膚病は不治の病で した。重い皮膚病患者の手足は、進 行性の病に次第に冒されていき、顔 や手足が醜く変形し、ひどい痛みが 生じます。感染を恐れて、重い皮膚 病患者は居住地域から追い払われ、 普通の道を使うことを禁じられまし た。ミサの第1朗読にあるように ³、彼らは律法で汚れているものと 公に言われていました。他の人々と 区別するために重い皮膚病患者は、 頭を覆い、引き裂かれた服を着なけ ればなりませんでした。人の住んで いる近くを通る時は、そのことを知 らせる義務がありました。家族さえ 近寄りませんでした。彼らの苦しみ は、自分が犯した罪のための神から の罰だと、一般的には考えられてい たことでした。重い皮膚病患者を町 の中で見るのは珍しいことでした。 おそらくその病人はイエスのことを

聞きつけ、主に近づく機会を熱心に 探していたことでしょう。ついにイ エスを見つけ、旧いモーセの掟の厳 しい戒律を破ります。キリストは重 い皮膚病患者にとって希望、唯一の 希望だったからです。

それは驚くべき光景だったに違いあ りません。その重い皮膚病患者はイ エスの前にひれ伏しました。「み心 ならば、わたしを清くすることがお できになります |。み心ならば…、 多分、事情を説明するために、もっ と長い言葉を準備していたでしょ う。しかし、結局、信頼と真実の感 情で心は満ち溢れて、つい口をつい て出た願いで十分でした。「み心な らば(清くすることが)おできにな りますし、口ごもって言ったほんの わずかなこの言葉であっても、それ は本当に力強い祈りです。イエスは 気の毒にお思いになりました。ま た、3人の福音史家は、主の驚異的 な振舞いについて描写しています。

ら、心の奥まで注ぎ込まれる恩恵の 邪魔をしなければ、私たちの利己主 義を癒してくださいます。イエス は、最も悪い病は自分の罪をごまか す偽善でありうぬぼれであると教え てくださいました。医者には正直に ありのまますべてを説明しなければ なりません。そして、「主よ、御心 ならば、わたしを清くすることがお できになります」(マタイ8・2)と 申し上げねばなりません。御身は、 私の弱さも症状もご存じです。こん な弱さにも苦しんでおります。そし てごく素直に、傷口も、そして、も し膿(うみ)が出ていたら、膿(うみ) もお見せしましょう⁴。私たちの生 活上のすべての惨めさをお見せする のです。

今日、私たちのひどい失敗と弱さは、重い皮膚病の患者がしたように、キリストに近づく機会になることを思い出さなければなりません。その時から、紛れもない主の弟子に

なるでしょう。信仰と信頼をもって ゆるしの秘跡に行きますか? 霊魂を 清めたいという真摯な望みを持って いますか? 定期的にゆるしの秘跡に 行くようにしていますか?

44.2 重い皮膚病、罪のイメージ。司祭はキリストのペルソナによって罪をゆるす

ぞっとするような醜さと忌まわしさ のために、重い皮膚病の患者は必然 的に他の人から分け隔てられまし た。教父たちは重い皮膚病の患者の 中に罪のイメージを持っていました ⁵。 概して小罪を含めて罪とは重い 皮膚病よりももっと醜く、もっと忌 まわしく、この世の生活と来世に もっと悲惨な結果をもたらします。 もし私たちが信仰を持って大罪の状 態にある霊魂を見ることになれば、 恐ろしさで死んでしまうでしょう 6。 私たちは神の恩恵のお陰で、大 罪を犯していないかもしれません

が、みんな罪人です。それは忘れてはいけない事実です。イエスは私たちを治療することができる唯一のお方です。ただイエスのみがおできになります。

主は病人を探しに来られます。イエスだけが罪の重さを判断し、推しることができます。ですから対した近づくときには、不工ないが罪人に近づくのもあることは、不知のはないの関わりを持たれ、人々の道を表されます。これがイエスは破壊するために来られました。完成するために来られました。

イエスが癒される時、私たちの重い 皮膚病を治される時、主は素晴らし い奇跡を成し遂げられます。この奇 跡は霊魂の病気、罪に対する神の力 を見せてくれます。同じようなこと が今日の答唱詩編に書かれていまし た。そこには、罪をゆるしていただ

くことはどれほどの喜びであるかと いうことが語られています。「いか に幸いなことでしょう。背きを赦さ れ、罪を覆(おお)っていただいた者 は | (詩編32・1)。イエスは体の 病気を治し、同時に罪から解放して くださいました。このようにして、 イエスは、ご自分の訪れが預言者に 預言されてきた、まさにその救い主 であることを示されました。私たち の霊的身体的健康を失わせるすべて のものから解放するために、「彼が 担ったのは、わたしたちの病しま た、「彼が負わされたのはわたした ちの罪」でした(イザヤ53・3~12 参照)。こういうわけで、今日の祈 りの主なテーマは、霊魂の重い皮膚 病である罪の浄化です⁷。

イエスは、私たちを赦すため、贖うため、罪、霊魂の病から解放するために来たと言われました。また、その赦しは全能の神のしるし、神のみが持つ力のしるしでもあります。。

どのゆるしの秘跡も、ゆるすことで 神の力と憐れみを明らかに示しま す。司祭は、この力を自分の名では なく、キリストのみ名によって行使 します。司祭は、主のみ手の道具と なり、キリストのペルソナにおいて 行うのです。ヨハネ・パウロ二世は 司祭たちに次のように言われまし た。「イエスが、私たちにお授けに なる力を、いわば、自分の人格がイ エスの実在の中に溶け込んでしまう まで行使するようになります。私た ちをとおして行われるのはイエスご 自身です。ゆるしの秘跡で「あなた の罪はゆるされた | という父の言葉 を言い表すのはイエスご自身です | ⁹。 司祭の声の中に、私たちはキリ ストの言葉を聞きます。

ゆるしの秘跡で尊敬と感謝のうちに、キリストご自身に私たちは近づきます。司祭の内に私たちの病気を 治すことのできる唯一のお方、キリストを見なければなりません。主 よ、お望みならば、私を清くするこ とがおできになります。

「なんと美しい祈りであろう。神とあなたと私だけが知ってある。重なたに起こったな信仰いもの重かな信仰いもっなに見もと問もない。と間もないである。主なと間もないである。主ないである。主ないでしょう。私たちを治療します。

44.3 告解の使徒職

私たちはこの重い皮膚病の患者から 学ばなければなりません。彼はイエスのところに来て、ひれふして願いました。病気を認めて、謙遜に、治してもらうように願いました。主は重い皮膚病の患者に言われました。「よろしい、清くなれ」。するとた

たな生命と新たな喜びに、愛する 人々、すべての人々が与るよう、努 力すべきなのです。自分が主に出会 うだけでは十分ではないからです。 個人的な使徒職によって、病気であ ることを知らない人々に、また、病 気が治らないと思っている人々に福 音を広めなければなりません。多く の人を教会に連れて行きなさい。非 常に多くの人々が、自分たちが本当 に必要としている罪のゆるしに背を 向けるこの時代にあって、キリスト が私たちに求められている大きな責 任の一つですから。

ある場合には何冊かの易しい本を読むように勧め、理解できる言葉で信仰と道徳の基本的な点を説明しまないのから、初歩のカテケージス(要理教しないならなければならないると空虚がしないであるとででであるよう助けることにででいて理解するよう助けること、良心のます。十分な理解を持って、良心の

糾明を深くすることができます。多 分、私たちが通常告解をしている司 祭のところに行くように励ますで しょう。どのように単純で謙遜であ ることができるのかを示し、神から 遠のいているものを全部話すので す。神は彼らを待っておられます。 私たちはその人たちのために祈り、 仕事の時間と犠牲を捧げ、自分の告 解を定期的に行います。そうすれ ば、ゆるしの秘跡を受けて欲しい 人々が、その秘跡、つまりキリスト ご自身のところに行くのに、新しい 効果的な恩恵を神からいただくで しょう。

それは、重い皮膚病の患者にとって 忘れられない日だったに違いありません。私たちのキリストとの出会い も同様にすべて忘れられないもので す。神への小道に沿って歩むようで 私たちが手助けをした友だちは、主 との出会いで得た平和と喜びを決し て忘れないでしょう。そして、次は 彼らが、良い告解をする喜びを知る とはどのようなものかという福音を 広める使徒になるでしょう。マリア に向かえば、憐れみの御父である神 がこの秘跡に残された素晴らしい恩 恵について人々に喜んで大急ぎで伝 えるよう、マリアは励ましてくださ るでしょう。

 $_{-}^{1}$ $\forall \mathcal{V} \exists 1 \cdot 40 - 45$ "Si vis, potes me mundare

² ルカ5・12

³ レビ13・1-2、44-46

⁴ 聖ホセマリア・エスクリバー 『知 識の香』 9 3

⁵ 聖ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on St Matthew, 25:2 参照

⁶ 聖ヨハネ・ビアンネ,The Cure dArs, quoted by John XXIII in the letter, Sacerdotti nostri primordia

 $rac{7}{2}$ 聖ヨハネ・パウロ二世,Homily, 17 February 1 9 8 5

8 マタイ9・2 参照

[°] 聖ヨハネ・パウロ二世,Homily, Rio de Janeiro,2 July 1 9 8 0

¹⁰ 聖ホセマリア・エスクリバー 『道』 1 4 2

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VI-nichi-B/ (2025/12/13)